

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホーム独自の理念を作っている。理念は、①ゆつくり楽しくよりそって暮らせる家を目指します。②ご利用者様、ご家族様、地域の人々、私達スタッフの幸せを目指します。③自分でやれる喜びと達成感のある暮らしを目指します、の3つである。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>出来る限り、ご利用者様と過ごすよう努力している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域運営推進会議を通して、グループホームについての理解と啓発に取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の商店に買物や散歩に行くことで、近所付き合いができている。グループホームの周辺に住んでいるスタッフが多いので、顔馴染みとなっている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会や行事に参加している。地域で作っているサークルにも参加している。老人会や地域の行事(地域の草刈り、みぞ掃除)、地域のもようし(夏祭り、近くの神社の行事)にも参加している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームは、常時開放しており、介護相談にはいつでも対応している。認知症の理解や関わり方について、広報誌(四季だより)の記事を掲載したり、地域運営推進会議で話し合いがもたれている。	○	今後、センターの近くが小学校の通学路になっており、交通安全にご利用者様とスタッフで関わりをもてたらと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	去年度の外部評価報告書を元に、改善すべき点について取り組みを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議が2ヶ月に1回行われている。その中で、グループホームの様子、行事などを報告している。会議で上がったグループホームに対する意見等も日々のサービスに活かす努力をしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症に関する専門医による講習会の開催を企画している。市担当者や包括支援センター等関係機関へも協力を呼びかけ、実施に向けて協議している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、学んではいるが、対象者が現在のところいない。いつでも活用できる準備はしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を中心にスタッフに虐待防止を周知徹底している。	○	高齢者虐待に対する研修に8月参加予定。スタッフに伝達講習の予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
g			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり、解除する際には事務長や管理者より、ご利用者様やご家族様が納得されるまで十分な説明等を行っている。時には退去でご本人様のグループホームでの様子など必要な場合には、情報提供表を出し協力している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様の苦情等に関しては、日頃の生活でスタッフが聞くことにしている。些細な不満に対しても、ご利用者1人ひとりに合わせて対応している。意見箱も設置している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>随時、ご利用者様の健康状態や変化についてはご家族様が面会に来られた時や電話にて報告を行っている。</p>	<p>○</p> <p>2ヶ月の1回、ご家族様にグループホームでのご様子をお知らせするお便りを検討中。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様が来られた際には、スタッフが積極的にお話をするようにしている。その中で、苦情等の話があれば真摯に受け止め、全体カンファレンスで話し合いを行い、運営に反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度の全体カンファレンスで、職員の意見、要望を聞く機会を設けている。また、管理者はカンファレンスだけではなく、日頃から職員とコミュニケーションを取り、意見等を聞くようにしている。運営者が来られ、自らスタッフと話をされ意見を聞かれている。スタッフの意見を大切にされている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務作成者(管理者、事務長)が積極的に行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者と管理者、事務長は、日常的に情報交換を行い、ご利用者の混乱等防ぐため異動や退職を最小限に抑える努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	同じ地域の施設の夏祭りに参加させていただいたり、職員交流会などを企画し京北地区の高齢者サービスの向上に貢献していきたいと考えている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	現在は、入居前の家庭訪問はしていない。今後は、家庭訪問が必要と思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様が求めていることへの支援は、相談を受けた時から行う努力はしている。グループホームではなく、他のサービス利用でご本人様、ご家族様が安心されることがあれば検討していく場合もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時に、ご本人様、ご家族様に他利用者様やスタッフと過ごしていただく時間を必ず作っている。グループホームの雰囲気、様子を感じ取っていただいている。	○	入居日の1週間前から慣れていただくために、何時間かグループホームに来ていただき自宅へ帰っていただくようなカリキュラムをご利用者様、ご家族様と考えていくことも必要かと思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理などに関して介護者が知らないことを教えていただいたり、料理を作る楽しさを増やしたりして喜びを共にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にホームに足を運んでいただき一緒に過ごしていただいたり、レクリエーション(家族会)などにも進んで参加していただき、共に楽しんで生活状況もわかっていただく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会など可能な限りホームに足を運んでいただき、現状を理解していただく。家族の絆が疎遠にならないように、また、スタッフとの信頼関係を築くように努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご利用者様が馴染みの人(ご家族様や友人など)との外泊(自宅に帰ることやよく旅行したところに出かけるなど)や外出(よく行ったレストランやお店など)には、積極的に支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グループホームのできる作業はご利用者様に手伝っていただいている。(おやつ時、お茶を汲んで出していただく、洗濯物干しなど)そのような場面を通して、助け合いやふれあいが生まれ、ご利用者同士、良い関係となっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話連絡をしたりしている。病院に入院されたり、退去されたりした場合でも病院に足を運びグループホームでの出来事などの話をしたりしている。	○	グループホームで仲良くされていた方や出来事など連絡できる体制も整えていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は、ご本人様に尋ねたり、身近な人(家族や友人)に尋ねたりして把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に尋ねている。ご本人がわからないことがあれば、身近な人(家族様)に聞いて、把握に努めている。個人個人のアセスメントを徹底する努力も行っている。	○	認知症ケアアセスメントセンター方式の徹底を行っていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに合わせた対応を行っている。利用者本位の生活ペースに合わせて支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回、また、それ以外にも問題点が出れば随時ケースカンファレンスを開いている。ご本人様、ご家族様も参加してケースカンファレンスを開くこともある。そのケースカンファレンスを元にし、介護計画作成に役立っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。ご本人様の身体的変化等でプランにそぐわなくなってきたら、随時カンファレンスを開き、介護計画見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に対して、日々の介護記録に介護計画にそった記録もなるべく記入する努力もしている。また、介護計画が日々活かされているかどうかは、ケアプラン実践表を通してスタッフ全員が把握できるようにしている。また、介護計画は、スタッフ全員が閲覧できる場所に置き、随時、必要事項を記入できるようにしている。	○	今後も、介護計画にそっての記録も記載していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の人々が利用しているデイサービスが廊下づたいにあるため、デイサービスご利用様がグループホームに来られ、ご利用者様同士、顔なじみとなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、小学生などと協力しながら支援している。	○	民生委員とともに幼稚園との交流を計れるよう依頼したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援センターの訪問もあり、連携はとれている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議にご利用者様のご家族様がメンバーに参加しておられ、実状は理解されており、常に支援はできている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	京都市立京北病院が連携医療機関となっている。歯科は、近くの安井歯科を利用している。但し、ご本人様、ご家族様が希望されている医療機関があれば、ご利用を支援している。		

京都府：ケアサポートセンターけいほく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院の際、早期退院に向けたカンファレンスも積極的に行って行きたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	スタッフの意識改革、指導に取り組み、方針を考えていきたい。家族様との話し合いも必要と考える。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		情報交換や情報提供表を作成し、退居先でもご利用者様が安心して変わることなく暮らしていけるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者様の記録に関しては、プライバシーに関係する不適切な表現や言葉等の内容は排除している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者様一人ひとりのペースを尊重している。朝は、起床が遅い方、朝にあんぱんを食べられる方、昼寝をされる方、時代劇をよく見る方、ラテンやジャズ音楽が大好きな方、掃除が好きな方、部屋で過ごすことが好きな方などその人らしい暮らしができるように支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者様の希望にそって支援している。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご利用者全員が女性であり、身だしなみには敏感である。散髪に関しては、個人個人の容姿を観察し、散髪に行きたいかどうかご本人に確認をとった後、近く美容院にいっている。出来る限りご本人の希望どりのヘアスタイルにそうようにしている。時々、エレガンス療法も取り入れ、ご利用者様の気分転換をはかっている。</p>	<p>○ 服を買える店にも行ってみたい。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、料理の手伝い、あと片付けは、なるべくご利用者様をお願いしている。ご利用者様の中に、栄養士の資格を持っている方がおられ、よく手伝ってくださる。(簡単な調理の仕方など教えてくださる。)食事は、ご利用者やご家族様、スタッフ一緒にリビングで食べている。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在は、お酒を飲んだり、たばこを吸われるご利用者様はおられないが、以前にお酒を飲まれるご利用者様がおられ、家人様の希望もあり夕食に缶ビールを出して飲んでいただいていた。おやつや飲み物に関しては、買い物と一緒に行き、好きなものを買っていただくようにしている。買い物に行けないご利用者様に関しては、スタッフが聞いて買ってくるように</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在、トイレ誘導を行っているご利用者様がおられるが、出来る限りトイレでの排泄を心がけ、排泄の訴え、排泄のサインがあれば誘導を行っている。オムツ使用量を減らしていきたいと考える。誘導する際にも、さりげない声かけを心がけている。	○	排泄パターンの把握に力を入れていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午後から行っている。曜日や時間は決めずに、個人に合わせて入浴を促している。ご利用者様の状況に応じて入浴時間は変更する。時には、デイサービスの大きな風呂で温泉気分を味わっていただく。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人にあわせて、基本的には居室で休まれるが、時にはリビングのソファで休まれたりされることもある。ご本人が安心して休まれる場所の提供、入眠サイクルに応じて支援している。昼寝されるご利用者様もおられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たため、調理の手伝い、食器洗い、花の水やり、草引き、買物などご利用者様に応じて役割が果たされるように支援している。また、好きなことや楽しまれることを把握し、日々楽しく生活していただけるよう支援している。ドライブ、カラオケ、音楽鑑賞など人気がある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところは、金銭管理に関する支援はしていない。	○	電話代をご家族様から預かり、ご利用者自ら、公衆電話を利用し、希望される場所へかけられるように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や天気が良いれば(涼しい時間で)散歩にもでかけ、外の空気を吸っていただいて、リフレッシュしていただくよう支援している。ご利用者様からのドライブ希望があれば、可能な限り車で出かけている。ドライブにもよく連れて行ってくださるご家族様もおられる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉旅行(家族会)、外食、近所の朝市にも出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、ご本人が希望された時は、スタッフが電話をかけてからご本人にかわるようにしている。	○	暑中見舞い、年賀状、季節の挨拶のハガキなど書けるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人の馴染みの人達が、いつでも入れるように玄関は、いつも開けている。訪問された時には、お茶とお菓子などでくつろいでいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名、車椅子拘束(T字ベルト)をしているご利用者様がおられる。車椅子からの転倒の危険性のリスクが高いため、やむを得ず車椅子拘束を行っている。家族の同意書、日々の記録(何時にT字ベルトをしたか、何時にT字ベルトを外したか、ご本人の様子など)、身体拘束経過記録を行っている。全スタッフは、ご利用者様が自由に、そして安全に暮らしていただくため、床(ジュータンを敷いて)で過ごしていただいたり、ソファーに座っていただくなどの工夫を考え、見守りをして拘束のないケアを目指している。	○	今後は、拘束時間を少しでも短くして行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、いつも玄関の鍵は開いている。窓やトイレの扉、ローカ奥にあるデイサービスまでの扉も鍵はかけていない。特に夏など、風通しをよくするため玄関は、開けっ放しにしていることが多い。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	介護者同士、ご利用者様の動きに対して敏感に反応し、介護者同士のアイコンタクト通してのさりげない介護に努めている。ご利用様が混乱し、外へ出られた際には、必ずスタッフが付き添い、トラブルや事故などないように配慮している。その時、スタッフは必ず、携帯電話を所持し、すぐに連絡が取れる体制を整えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の薬は、詰め所に保管している。ハサミやホッチキスなども詰め所に保管している。調理用の包丁などは、キッチンの引き出しに保管しているが、鍵はかかってなく、いつでもとりだせ使用できる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止・事故発生対応マニュアル、非常災害対策マニュアルにそって対応している。	○	窒息の対策として吸引ノズルに購入を考えてみる。救急法についての研修を予定。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者自らが、日頃からご利用者様個人に合わせた対応をスタッフに話している。	○	救急法についての研修を予定。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルにそって対応している。警察や消防とは協力・連携はとれている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	できる限りご家族様と協力して安心して暮らせるように支援している。例えば、病院受診などでは、できる限りご家族様に付き添っていただき、担当Dr. から直接説明を受け、それをもとにホームでいかにして起こり得るリスクを少なくして安心感のある暮らしができるかをご家族様、スタッフで話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を見抜く目をやしなうように職員同士、勉強している。(ご利用者様の体調の変化があれば、管理者に連絡している。)連携病院(京北病院)との協力も得ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からいただいた薬情書は、詰め所に保管している。いつでも薬に関する情報を確認することができる。定期受診の際には、必ず状態を説明している。服薬に関しては、必ず薬の名前とご本人の確認をきちんと行い、防止できている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	こまめな水分補給、ヨーグルトや飲み物(乳酸菌飲料)を摂取していただいたり、体操や散歩を行ったり便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアをご利用者様全員に行っている。ご自分で口腔ケアがしにくい方やしっかり磨けていない方には付き添いを行い、介助や口腔内チェックを行っている。連携歯科医院(安井歯科)の指導、協力を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士よりカロリー計算やバランスのよい食事の指導を受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	衛生管理・感染症対策マニュアルにそって対応している。外部での研修も受けている。塩素系消毒液(キッチンハイター)を使用している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	近くの商店やスーパーマーケットに出かけ、常に新鮮な食材を準備している。キッチンには、常に清潔を心がけ、調理用具等は、塩素系消毒液(キッチンハイター)で消毒を行っている。冷蔵庫内の食材は、常時スタッフによりチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広く、車椅子も楽に通れるスペースとなっている。段差も少なく、歩行不安定なご利用者様にも安全なつくりとなっている。玄関には、長いすが置いてあり、そこに座って履物を履いたり脱いだりできる。玄関先には、手すりやスロープがありユニバーサルデザインを感じさせる。ドライブの際には、スロープぎりぎりまで車を近づけることができ、ご利用者様の車の乗り降りが楽にできる。敷地と建物を壁やフェンスで囲んでいないため開放感がある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	優しく感じさせる木を使った柱、テーブルや椅子、家具などがあり、家庭的で気持ちが落ち着く雰囲気づくりをしている。リビングに花も飾り、季節感もでている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内や玄関先の軒先には、ソファや椅子、ウッドチェアがあり、ご利用者様の思い思いに合わせて過ごせるように居場所づくりに努めている。一人で椅子に座っている方もいれば、一つのソファに3人が座りニコニコ笑い、お話ししながら過ごしている光景もみられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、使いなれた物やご本人の品物になるべく多く持ち込まれるように努力している。	○	今、以上、にご利用者が慣れ親しんだ物品で過ごしていただけるようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	大きい窓もあり、換気もこまめに行っている。適温、適湿調整は、不快指数計算表をもとに管理を行い、ご利用者の不快防止に努めている。床暖房も完備している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープを設置している。リビングの洗面所には、のびる手洗い用のホースも付いている。トイレは、引き戸で、ご利用者が使いやすいように工夫されている。	○	トイレの便座の高さを1箇所調整していく。リビングの洗面所の温度調節などももう少しご利用者に合った調整が必要。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に、ご利用者の状態把握に努め、その人の立場に立って見守り、支援する。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先(軒先)には、ガーデンテーブルと椅子がありいつでも過ごしていただけるようにしている。ご利用者様、スタッフがお茶を飲んだり、おかしを食べたりしてリラックスできる場所となっている。草花も栽培しており、花の水やりや草引きもできる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様がゆっくり、のんびり過ごせるグループホームを目指している。また、ご利用者様一人ひとりに合わせたケア（個別対応）に努力している。